県立高等学校改革喜多方市懇談会の意見等要旨
（令和２年度第２回　10 月 21 日開催）

耶麻農業高校校と会津農林高校の統合に関する内容について懇談。
懇談の前に、「県立耶麻農業高等学校を考える市民の会」の代表者等より、統合に対する考えや活動の状況等を説明。

１　市民の会の活動状況等

○　県から高校改革の方針が示され、耶麻農業高校がある山都町にとっては、地域振興のみならず通学している生徒との繋がりもある。
平成元年１２月から山都町で懇談会を開催してきた。その中で様々な意見が出され、本年６月に市民の会を設立し具体的な活動の検討を進めた結果、地元の声を県に届けることが大事であろうとのことから、山都町において署名活動を進めた。

○　署名には地元住民の願いが込められている。市の方針を決めて進めてもらいたい。
市内の高校間の農・商・工連携によるまちづくりや、介護の職場を目指す高校生の支援についてもお願いしたい。

○　耶麻農業高校と山都町のつながりは、そばまつりなどのイベントを中心に高校の協力をいただいている。また、市内の高齢者施設等において介護体験などを行っている。

○　地域活動等を通じ社会性を体験でき、人間形成の場として生徒にとっても有益である。このような教育を行っている高校が統合により無くなってしまうことは非常に残念である。

○　市全体で見た場合でも、高校が無くなることにより地域振興にも影響が出てくるものと考える。耶麻農業高校は、市の花でもてなす取組に対しても大きな貢献をしており、山都町だけの問題ではなく、喜多方市全体の大きな問題として捉えていただき、皆さんの御理解・御協力をいただきたい。

○　市民の会が統合に反対する理由は、一点目は、統合に関し広く市民の声を聴くことなく、一部関係者への説明だけで計画を策定したことは遺憾である。
二点目は、福島大学に農学群食農学類が設置され、農業高校の教育においても教育内容の充実・拡充を図り、本県農業の新たな可能性を研究する人材育成を図る大事な時期でもあるが、農業が主要産業である本県においては県民ニーズに逆行する政策である。
三点目は、統合を進める前に、農業高校の魅力を最大限に発揮できるよう、教育設

備の充実や大学と連携した教育環境を充実するなど、生徒数の確保を図る努力をしてこなかったこと。

○　会津教育事務所が作成した広報紙では、耶麻農業高校が生徒と地域が連携した取り組みを実践していることが伝えられている。県の本庁ではどのように捉えているかわからないが、直接高校をみている教育事務所では活動に対し評価をしている。

○　家庭クラブ大会において大臣賞を受賞するなど、耶麻農業高校の活動の素晴らしさを知ってもらいたい。

２　懇談での意見等

○　この計画に基本的には反対である。
　少しでも多くの方の署名をいただき、県へ伝えていけるような取組となるようお願いする。コロナ禍で署名活動をするにも難しい面もあるが、一歩でも前へ進むような意見が出るよう進めてほしい。

○　ライフコーディネート科の廃止は、介護人材が不足している現状において、地元で高校から介護を学ぶことができるものを廃止することは一番残念なことであり、無くしてはいけない。

○　選択肢の中から生徒が自ら選んでいくことは大切であり、今回の統合が行われた場合、子どもたちの選択肢が一つ減ることとなる。

○　学校は子どもたちのものである。そのベースは地域にある。地域も良くなることで、子どもたちへと結びついてくる。

○　地域振興や生徒の選択肢ということも考えれば、安易に少子化だから統合するということにはならないと思う。

○　学校と地域の連携も大切である。学校にない資源を地域は持っており、それを学校活動に活かしていく。また、学校が持っている資源を地域活動に活かしていく。この相互作用が非常に重要視されている。

○　学校と地域との関係は、これまで以上に進んでいくと思う。仮に統合された場合でも、地域との関係をしっかりとつくって進めていく必要がある。

○　現在は生徒数が少なくなって活動に制限があるが、これまで耶麻農業高校が地元や地域全体に果たしてきた役割や多くの人材を育ててきたことは、県教委にしっかり伝えていかなければならない。

○　福島大学に新たな食農学類が設置され、地域が元気になっていくことで、それが子どもたちへの就職先にも繋がっていく。目先のことよりも、もっと長いスパンで農業を考えていかなければ、子どもたちが住みたくても住めない状況となってしまう。

○　山都町は耶麻農業高校と一緒に歩んできた歴史は長い。有機農業に取組む方も多い喜多方市の農業を、耶麻農業高校に伝統として受け継いでいってもらいたい。

○　大きな学校へ集約されてしまうと、大規模農業が中心になってしまうのではないか。日本の農業の大部分は中山間地域で頑張っている方がいるので、農地も荒れずに継続されている。今後の５年、１０年先を考えた場合、教育委員会だけの問題ではない、県全体または国と共に考えていかなければならない。

○　中山間地域の農業を考えた場合、研究と実践ができる環境が必要である。統合された場合は、それらの場として耶麻農業高校の施設を有効に活用することを望む。

○　これまでの生徒数の減少の経過をみた場合、大変厳しい状況にあるとは感じている。
　生徒一人ひとりに対するきめ細やかな教育は、今は大規模校、小規模校問わず行われている。これは良いことだが、あまり手をかけすぎてもよくない。また、生徒同士が切磋琢磨しながら育つ環境も必要である。

○　県は生徒数増加を図る努力をしてこなかったが、地元では検討を重ねながら努力をしてきた。

○　地元の人たちの様々な協力があって現在の学校に至っている。県教委には地元にもっと丁寧な説明をしてもらいたい。

○　地元選出の県会議員にも現状認識をしっかり持ってもらい、統合の件を考えていただきたい。子どもたちのためにも、この懇談会でも十分検討すべきと考える。

○　少子化の現況を踏まえると統合は避けられない中で、前向きに検討を進めるべきとも思ってきている。統合に反対し地元に高校が残ってほしいと思っていたが、気持ちが揺らいでいる。

○　統合は子どもたちのためになると思っており、賛成の立場である。

○　耶麻農業高校と市民の繋がりは理解できるが、子どものための意見が出ていないと感じる。県の懇談会での意見も、子どもの将来を考えた意見がほとんどない。

○　耶麻農業高校が無くなると、介護をする人がいなくなるとは思わない。子どもたちは魅力があると感じれば、自ら選択して進んでいく。

○　統合されて会津坂下町に通学することは大変だと思うが、子どもが選んで進学した学校であれば、どのような環境でも通学すると思う。

○　耶麻農業高校を存続させることは理解できなくもないが、これからの子どもたちのことを考えれば、子どもたちの気持ちになって考えてもらいたい。

○　高校卒業後、社会に出て仕事をするようになると、小さな規模だけでの学校生活では、大きな規模の中へ出て行った入った時に委縮してしまう。学校生活で様々な経験を積ませてやりたい。